

「若者ととともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「この地域に若者を呼び込むためには？」

日 時 平成27年6月19日（金） 午後6時から8時25分まで

場 所 浄光寺 本堂（小布施町大字雁田）

目 次

1	開会	・・・	P 2
2	意見交換	・・・	P 2
	(1) アイスブレイク～マグネットテーブルづくり	・・・	P 5
	(2) セッションその1	・・・	P 8
	(3) セッションその2	・・・	P 12
3	講評	・・・	P 18
4	知事総括	・・・	P 19
5	閉会	・・・	P 22

進行役 大宮透氏（慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター 総括マネージャー）
参加者 公募による20歳代から40歳までの男女
阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、マグネットテーブル方式による意見交換を実施しました。
各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

1 開 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

それでは、皆様、お待たせいたしました。ただいまから県政タウンミーティング、開催いたします。意見交換までの進行を務めさせていただきます、私、長野県企画振興部広報県民課の課長をやっております藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の県政タウンミーティングですけれども、地方創生のトップランナーを目指す本県が、その未来を担う若い世代の皆様と意見交換を行うという「若者タウンミーティング」でございます。1回目は2月に行っておりまして、2回目は5月に行ったところでございます。今回が3回目ということでございます。

それでは、8時までの予定でこれから意見交換に入ります。この意見交換につきましては、お名前などの個人情報を除きまして、後日、県のホームページのほうに公開させていただきますのでご承知おきください。

ちょっと先ほど知事のほうからも指示があつたんですけれども、せっかく若い皆さんお越しになっていますので、知事のほうに困ってしまうような、こういった提案をぜひどしどし寄せていただければ。

【長野県知事 阿部守一】

困ってしまうじゃなくて、腰を抜かす・・・。

【広報県民課長 藤森茂晴】

すみません、腰を抜かす、そういうことでよろしくお願いいたします。

それから本日のタウンミーティングでございますが、進行役ということで大宮透さんをお願いをしております。意見交換に先立ちまして、大宮さんのプロフィール、紹介させていただきます。封筒の中に書類がありますので、ちょっと開いて中を見ていただきたいと思います。次第のほうをごらんいただきたいと思います。

東京大学在学中の2009年に日米学生会議というのが、その開催地域の一つとして小布施町になったということで、そういったことでスタッフとしてこの小布施町との接点をお持ちになりました。それから大学院在学中の2012年に、第1回目の小布施若者会議の立ち上げに参画したということを機に、現在の慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンターの研究員としてこの町に居を移されたということで、2013年に第2回の小布施若者会議の実行委員長を務めたほか、若者を対象とした人材育成プログラムの企画運営、それから2014年からは「地域の未来づくりプロジェクト」をスタートさせた、こういった方でございます。それでは大宮さん、この後の進行をお願いいたします。

2 意見交換

【大宮 透氏】

よろしく申し上げます。非常に仰々しい自己紹介を、仰々しいと僕が言ってはいけないですね、ありがとうございます。今日、大体2時間ぐらいこの後進めていきますけれども、全部大体このパワーポイントに僕のカンペが入っていますので、これに従って進めていければと思います。

今日は、各地でやっている「この地域に若者を呼び込むためには」ということで、知事も一人の参加者として参加して一緒に若い人と意見交換をしようという場になりますので。ぜひ今日は小布施だけじゃなくて、たくさん各地から来ていただいていると思うんですけども、このテーマを少しちょっとブレイクダウンさせた問いを用意をさせてもらっているの、それに従ってワークをやっていけたらなと思います。どうぞ今日はよろしく申し上げます。仰々しい感じで何かを説法するような場所でやらせていただきますけれども、あまり気にせずにお話しさせていただければなと思います。

では早速、本日のタウンミーティングで話すこと、本題に入っていきたいと思います。

まず今日のお題は「この地域に若者を呼び込むためには」ということで、すごいざっくりしたテーマをいただいています。できれば、今日は2時間ぐらい時間があるので、少しずつこれを進めていければなというふうに思っているんですが、もうちょっと噛み砕いてというか、長めに考えてみました。「若者が住みたい」、多分、この地域に住んでいない人はまず住みたいと思うことが大事だと思うんですが、住んだ後に住み続けたいというふうに思える信州になるために、信州が生かすべき特徴と課題って何だろうとかということだったり、それを生かしていくためにそれぞれができることは何だろうと。もちろん今日は知事が来てくださっていますので、県庁、こういうことをお願いしますと言うのも大事だと思うんですけども、一人一人がどんなことができるんだろうみたいなことも含めて、それぞれができることは何だろうみたいな話をできたらいいかなと思っています。知事、こんな感じでいいでしょうか。では、ちょっとそんなことを思ってやっていきたいと思います。

最初にちょっとスケジュールだけお話しておく、あの時計で10分ですね。あれをちょっと基準に進めていきたいと思います。まず今、仮にグループという形にしています。この後、移動するんですけども、この仮グループでまずは自己紹介とか、一つだけワークをテーマにあわせてやってみたいと思っています。これは20分ぐらいやって、その後、今日はできれば興味分野が近い人同士で話してもらえたらいいなと思っています。ワールドカフェだと一つのテーマをぐるぐる回してという形になんですけども、そうじゃなくて、興味分野が近い人同士で話すということに持って行きたいので、マグネットテーブルという方式があるので、それでグループを組む時間をとりたいと思います。グループを組んだら、興味があるテーマについて2つセッションをやって、それぞれ全体に2分ずつぐらいで発表して共有という流れをとりたいと思います。これが大体1時間ぐらいで、最後、まとめと知事からの一言ということで、果たして知事に響いた提案があったのかどうかみたいな話も含めて、10分ぐらいでまとめるという流れでやっていきたいと思います。

何かここまで、全体の流れで質問がある方いますか。どうでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

最初に一言だけ、まとめの一言の前に。

【大宮 透氏】

では、そういう最初の振りは用意しておいたんですけども、先に振っちゃいますので、お願いします。

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さん、こんばんは。ちょっと最初一言だけ。さっき、私の指示で、腰が抜けるようなと言いましたけれども。例えば、昨日、報道の人たちとこの地方創生をどうするかということで意見交換して、その中のある人が言った提案の一つが、今、18歳人口に対する大学の定員が最も少ないのが47都道府県で長野県です。今、県立大学をつくろうという議論をしています。その方が言っていた提案は、大都市・東京圏の大学は全部廃校にする提案を長野県でしたらいいじゃないかということと言われました。それはなるほどいいなとは思っています。ぜひこれ、今、直ちにということも必要ですけども、若者を呼び込むためにはやっぱり10年、20年先を見ていろいろなことをやっていかないといけないので、今、まじめに考えると実現不能かもしれないなと思うことも含めて、どうか私が腰を抜かすようなことをぜひみんなで語り合ってもらえるとうれしいということだけ、一言申し上げておきます。よろしくお願いします。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。拍手しましょう。知事から一言いただきました。腰が抜けるような提案というところまで行くかどうかわからないんですけども、皆さん言いたいことをどんどん言ってもらえればいいかなと思いますので、自由に話をしてください。

今日のルールなんですけれども、今言ったように、言いたいことは言おうということで、4つだけちょっと用意してきました。皆さん、言いたいことを言い合うので、聞く姿勢も大事だよなということで、聞く姿勢を大切にしましょう。相手の意見を尊重してくださいということで、最後までぜひ人の意見というのは聞いてください。そうすることで、皆さん言いたいことも言えるようになると思うので、これはぜひルールにしてほしいと思っています。もう一つが、批判で終わらせずに、その解決策を一緒に考えようということ。あれがこうだ、それがどうだみたいな批判で終わっちゃうだけじゃなくて。もちろん批判は大歓迎なんですけれども、では、それをどうしたらいいのかというところの一步先まで一緒に考えていけたらいいと思っています。なので、そういう前向きな気持ちで一緒にできたらということだけ言っておきます。最後に、さっきからちょっとチラチラと映るんですけども、知事はメディアの存在というのはあまり気にしないようにしようということで。今日は、知事はあくまで参加者の一人ということですよ、知事。

【長野県知事 阿部守一】

そうですよ。最初に一言余計なことを言っちゃってごめんなさい。

【大宮 透氏】

大丈夫です。ありがとうございました。ただ、あまり気にしないようにしようということで、そこだけ今日のルールにつけ加えておこうと思います。

忘れないうちに最初にお礼を言っておきたいんですが、今日、お菓子をいただいています、この「りんごのささやき」をぜひ食べながら、自由闊達に意見をしていただければと思います。

そしてもう一つだけ。今日、この会場を使わせていただいているのが浄光寺という小布施のお寺でして、後ろに副住職の林映寿さんがいらっしゃるの、よかったらぜひ一言、お願いします。

【浄光寺副住職 林映寿氏】

皆さん、この環境だったらきっと腰を抜かす意見を考えられると思います。何かがおりてくるとい、そういう環境かと思しますので、頑張ってください。よろしく。

【大宮 透氏】

浄光寺さんって本当にいろいろな先進的な取り組みをされているお寺でして、こういった取り組みにもご協力をいただいておりますので、本当に改めてお礼を申し上げておきます。ありがとうございます。

それでは早速、ワークのほうに入っていきますので、次のスライドを見ていただきたいと思います。これから3つぐらいワークをやっていただくんですが、まずは最初ワーク1としてアイスブレイク。少し緊張の糸をほぐすためにも今のグループで自己紹介をしていただければと思います。名前と所属、それぞれの状況、参加した理由、住んでいる場所の好きなところ／嫌いなところ、そんなところで自己紹介をしてもらったらと思います。深堀りし過ぎるとすごい時間がかかるので、ちょっと興味を持ちつつ、あまり深堀りしないぐらいの感じで自己紹介をしてもらえればいいと思います。自己紹介はそれなりに済ませていただいて、ここがちょっと本題なんです、今日の導入としてまずやっていただきたいのは、自分の同世代の友だちに長野県に移住してきなよ、移住するのはぜひ長野県、すごくいいよというふうに言えますか／言えませんか。その理由はみたいなところをぜひ共有してもらえればいかなと思います。きっと年齢や地域の違いで、言える／言えないというのも変わってくるのかもしれないなと思いますので、お手もとにある模造紙を自由に使っていただいて結構です。ぜひそんなところを皆さんで意見交換をしていただければと思います。これは発表はしないので、とにかく適当にいろいろなことをたくさん話してください。では、やってみてください。よろしくをお願いします。

(仮グループでのアイスブレイク)

【大宮 透氏】

はい、では、やめてください。ありがとうございます。いろいろな意見がそれぞれテーブルで出たと思います。うちのテーブルでは長野県に移住してきなよと言える人のほうが多数派だったというのはどのくらいありますか。結構少数派が多いんですね。そこは多数派ですか。そちらは半々ぐらい。どのようなネガティブな意見だったんですか。

【グループ1】

若いうちは、好きな場所で好きなことをやってればいいんじゃないかと。こっちに来なよってことを言う筋合いじゃないというか、みんな好きにしていればいいんじゃないかと。

【大宮 透氏】

長野に来てもいいし、そうじゃないところでもいいよねみたいな、という話ですね。なるほど。ほかに何かネガティブとか、あまり、多数派の中でも私は勧められないなみたいな意見出たところありますか。はい、どうですか。

【グループ2】

東京の大学に行っていたんですけども、こっちに帰ってきた理由が、家族がいて小さいころからの仲間がいてということだったんですけども、実際に住んでみるとやはり都会にいたところと比べて洗練されたものとか遊ぶ場所とか飲む場所とか、そういうものが非常に少ないので、もし都会に住んでいる人に「来てね」と言うときには、やっぱり声を大きくしては言えないかなと思います。

(マグネットテーブルづくり)

【大宮 透氏】

なるほど、ほかの人を連れてくるほどまでに勧めることはできないなというイメージですね。はい、わかりました。ありがとうございます。

何か、今、少しずつ種というか、皆さんがちょっと問題意識を持っているようなテーマが見えてきたと思うんです。次のワークに移りたいと思うんですけども、早速、マグネットテーブルというものをやりたいと思って、それぞれのテーブルに白いA4の紙を人数分お配りしました。一人一枚持ってもらってもいいですか。せっかく仲よくなってもらったグループですけども、すぐばらけます。ばらけまして、次は興味分野が近い人同士でグループをつくります。こういう会って大体、何となくみんな言いたいことを言って、何となくバラバラして終わっちゃうということが多いので、もう少しテーマを絞って深堀して話ができたらいなということで、こういったやり方を採用させていただきます。やり方として、まず、皆さんの白い紙に書いてほしいことなんですけれども、自分が若者の移住・定住という今回のテーマに関連して重要だと思う分野。あと、その分野の中で深堀してみたい問いかけとか質問。いろいろな人の意見をぜひ聞いてみたいということについて、A4の紙に書いてください。何

でもいいです。今の話の中で出てきた自分の意見でもいいし、誰かの意見でもいいですが、このテーマぜひ話してみたいなということを、若者の移住・定住という今回のテーマに関連して書いてみてください。例えば、僕なんかはやっぱ教育とか、そういったものに関心があるので、分野は「子育て」、問いは「子どもを持った世代の家族が住み続けたいと思うためにどんな教育や子育て環境があればいいのか？」みたいな。教育に限らないです。仕事とか何でもいいです。なので、まず分野を書いてもらって、その下に問いかけ、自分が考えてみたいテーマ、というものを書いてみてください。お願いします。

(用紙に記入)

はい、ここで時間を区切りたいと思います。ここが今回のワークショップの肝なんですけれども、果たして、興味分野が近い人同士グループを組めるかというところが一番ポイントです。次に、今、皆さん書いてもらったテーマ、質問あると思います。自分と興味テーマの近い人同士5名ほどでこれからグループをつくってもらいます。やり方はこういう感じです。自分の話したいことを一つ選んでもらって、いろいろな人のものを見に行きます。見に行つて、これどういうことかわからなかったらいろいろ話をして、自分と近いことを話したいんだなと思えた人でちょっとずつグループをつくってください。見た感じ、結構テーマがかぶっている人も多いので、もし10人ぐらいの同じようなテーマの人ができてしまったら2つに割ります。何となくこれは近そうだなというものでグループをつくってください。もし、よく事情がわからないという人だったり、自分の書いたテーマに関してあまり自信がないという人は、自分のものを捨ててでも話したいテーマのところに行ってください。そういう形でマグネットテーブルをやってみたいと思いますので、皆さん、では立っていただいて。これ、皆さんの自主性が試されるのでぜひともお願いします。では、スタートします。できた人は何となく自分がよさげな席に座ってください。自分一人だけみたいな人が出てくるんですが、そういう人は、その他というテーマでくくりますので、何となく自分たちはその他だなと思ったら、その他で頑張つてチームをつくってください。5名に近ければ少し人数がずれてもいいですけど、5名ぐらいでつくってみてください。

(グループ分け)

一応、グループできてきましたか。ここら辺は仕事系。ここは子育てに関心があるんですね。ここはまちづくりとか地域づくりとかイベントとかですね。では、子育て、まちづくり、仕事、居場所。何となく組めましたか。ありがとうございます。ちょっと居場所を整えてもらつて。何となく興味分野の近いメンバーで固まれたかなと思うので、次はこういうワークに移りたいと思います。

最後から2番目のワークになります。話したいテーマを設定して深めてみるということで、一応皆さん、それぞれテーマはかなり近いと思いますが、深めてみたい問いのところまでぜひ落とし込んで話をしたいと思います。ですので、それぞれのグループで皆さん別々の問い

かけを持っていると思うんですけども、それをもう一回読み合わせてもらって、このテーマの中でぜひもっと深めてみたいなというような問いを選んでください。その問いについてもう少し深めてみようということで、ワークショップを行いたいと思います。それぞれのテーブルにはワークショップのためのポストイットとかいろいろなものがあって、今まだ何も書いていない状態だと思うので、どんどん書いて結構です。お願いします。それぞれのチームで何となくファシリテーターになりそうな方、一人はいると思うので、進めてもらって。まずは読み合わせから始めてみてください、お願いします

(セッションその1 開始)

(セッションその1 終了)

(セッションその1 全体共有)

【大宮 透氏】

はい、では一旦やめてください。お願いします。お疲れ様でした。今、20分間ぐらいずっと話していましたけれども。

結論は出ていなくて全然いいですので、これから全体共有ということで、1グループ2分という形で全体の発表をさせていただければと思います。ほかのグループの発表のときには、ぜひそのほかのグループの話を聞いていただければなと思います。

では、我こそはというグループからぜひ手を挙げて発表をしてほしいと思うんですけども。早いほうが多分いいんじゃないかな。では教育班ですね。まず、どういう問いをどういう感じで設定したのか。どんな話があったのかということをお願いします。

【グループA】

子育てとか教育という話で、テーマとしては、伸び伸びとした教育と学力を伸ばしていく教育とが、対立関係というほどではないんですけど、そこが両立できてなくて。伸び伸びした教育をさせたいから信州に来たいという親は結構いるんだけど、でもその先で、本当に受験で勝てるのかとか就職戦線に勝てるのかという不安もあって。伸び伸び教育を売りにしているんですけども、学力、そこはできないよねというような話で。こんな感じのテーマで話をしていました。

海外では伸び伸びやっていて、しかもすごい伸びる人もいるんだけど、日本はゆとり教育、失敗だったのかということもあるし、ちょうど子育てをしている世代の方がいるんですが、自分の子どもも保育園のころすごく伸び伸びさせていたんだけど、小学校へ入ったら全然学校の中で落ちつきがなくて、先生に大丈夫かとよく言われるようなところだったので、伸び伸び育てたいんだけど、学力をどう伸ばしていくというのは両立できるのか、もしくはもうそんなものは両立しなくていいから伸び伸びのほうへ伸ばしていくのかというような話で、まだ全然、議論の方向はまともではないんですけども。そういう話をしていました。

【大宮 透氏】

わかりました。ありがとうございます。ともすると伸び伸びVS学力というか、伸び伸びというのが今、信州のトレンドというか戦略だけれども、果たしてこの学力というものは無視していいのかどうか、そういったテーマですかね。そういった問いについて喧喧諤諤と議論されていて、今のところまだ結論には至っていないということでした。ほかのメンバーから何か補足ありますか。いろいろグルグルグルグル回っている状態だということだと思います。ありがとうございました。拍手をお願いいたします。ここは結構ポイントかもしれないですね。

では、続いてどこか、はい、向こう側お願いします。2つ目。

【グループB】

こちらのテーブルでは、その地域に人が集まるためにはとか、おもしろい人って何だろーみたいな感じで集まりました。今回、話し合ったのが、多数の人を集めるのと少数の人を集めるのでは違うという話をしました。少数というのは何かというと、何かが起こるとか会える場所をつくっていったらいいんじゃないかということだったんですけども、一番重要で考えていきたいと思ったのは多数のほうで、都会にするわけじゃないんですけども、全体のとっかかりとして、長野で選択肢がない。雇用にしろ仕事にしろ大学にしろ、こういったものを都会とは違う感じで長野でできることとして、その魅力、全体の若者が興味を持ってくれるきっかけというのをちょっと考えていきたいなというのがうちのテーブルでした。

【大宮 透氏】

たくさんの若い人が、きっかけとして長野に興味を持ってもらえるような場はどういう場なのかみたいな感じですか。きっかけと選択肢ですね。ありがとうございます。ほかに何か補足はありますか。

【グループB】

さっきの教育ともかぶるところがありますが、僕、美容師しているんですけど、都会から移住されてきて、子育てをするために長野に来たとか、仕事を脱サラして、残りの人生を長野で伸び伸びと過ごすという方が多くいるんですけど、若者が自分から長野で生活したくて来ましたというのはなかなかなくて。だから、学生で信大に来たというのは別ですけど、大きなくくりで大人たち、もう少し上の世代が来ることは多いんだけど、僕たちの世代が長野にまた戻ってこれるような環境をつくったほうがやっぱりいいと思って。でも、それが何かというのがちょっとまだ見えないんですけども。

【大宮 透氏】

特に議論の中では、例えば子育てで帰ってくるとかではなくて、どちらかというとも大学の後に、例えば20代の中盤とか後半ぐらいで。

【グループB】

そう。今の僕たち世代が何で出て帰って来ないかというところがやっぱり・・・。

【大宮 透氏】

なるほど、そこが一番大きな問いという感じですね。どちらかという、20代中盤ぐらいの若者が魅力を感じるためにはどうしたらいいのかという、そこら辺で場所が重要なんじゃないかという話をしていたというところですね。わかりました。ありがとうございます。拍手をお願いします。

では続いてどこか、どうでしょうか。ずっとここは相談しているんですけど大丈夫ですか。ここ行きましょうか。ここでお願いします。

【グループC】

一応、分野は雇用ということなんですが、どうして雇用かと言ってしまうと、仕事の充実が生活の充実、やっぱり長野に帰ってきたいといっても仕事は何かできないと。生活の安定といってもずっと一生いいというわけではなくて、自分で満足できる暮らしになれるという土台ができるというのが第一ということで、ではどうすればいいかというところから出たのが働く環境。その環境がどうすればできるかということをお話してきました。土地一つ一つで魅力も違いますし持っている顔も違う。そういうものをどうやって見せていくとか、その土地ごとに何かしらあるんじゃないかということで、ちょっとみんなでそこからエンドレスな状態になっている状態です。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。非常にエンドレスな状態が伝わってきました。何か補足はありますか。

【グループC】

何か新しい風を入れていくという、人もそうですし、やっぱり工事現場とかそういう今ある仕事ではなくて新しい仕事だったり、環境とかそういったものを魅力発信、プロモーションしていく中で、それぞれの地域のよさというものを出していけばいいのかなという感じで最後まとめました。

【大宮 透氏】

わかりました。では、その一つ、どうつくれるか、どう見せていくかみたいところで、新しい仕事、今までの長野のイメージとはちょっと違う仕事もあるわけで、そういったものを発信していくことが大事なのではないかということですね。はい、ありがとうございます。拍手をお願いします。

では続いてどうでしょうか、こちら、ではお願いします。

【グループD】

働くことについて話し合いました。1つに問いを絞れなくて、2つ出てきてしまったんですけども、1つは長野に帰ってきて、もしくは長野に移住して働こうと思った際に、目的だったり関心、魅力、興味ですね、これを伝えていく、発信するプロモーションが足りないんじゃないかなと。もちろん魅力のある興味がわく企業というのももしかしたら少ないのかもしれないですが、もうちょっと発信できる部分はあるんじゃないかなというふうに思っています。サポートする体制というか。もう一つは、女性が働きやすい環境をつくっていけないかということが出ました。家族で移住したりUターンしてきたときに、女性というのは子育てもありますし、もうちょっとサポートしていただければいいんじゃないかな、移住しやすくなるんじゃないかなと思いました。以上です。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。補足ありますか。長野で働くときの、その働き方の内容とか目的の発信をもっと違う形があるんじゃないかということ話し合った。それと女性の働きやすい環境。特にここは新しい問いですね。ありがとうございました。

では最後にこちらですね。どうでしょうか。

【グループE】

では最後になりますけれども、うちのグループではまちづくりというものをテーマにして、どうやったら若い人たちをもっと引きつけられるのかという、そういった革新のあるまちづくりみたいな、そういったものをテーマに話をしました。その中で一番最初にキーワードとして挙がってきたのが、シビックプライドという言葉。それは郷土愛といったようなもので、実際この町はだめだと思っている若者は多いんだけど、やっぱりここ、自分が生まれたルーツだから好きだという、そういった誇りを持って、だめなまちをどうにかしたいという若い人たちがイベント、例えば小布施であれば小布施の若者会議とか、スラックラインができる場所を新しくイベントとしてつくることで、人を引きつける引力が生まれるのではないかと。その引力からいろいろな人が集まることで新しい経済、新しいビジネス、そういったまちづくりが生まれて、それがまた今住んでいる人たちのシビックプライドとして、そこに生きている人たちの中で残って、それがずっとぐるぐる回るような、そういったものがずっと続くことでまちづくりができるんじゃないのかなという、ざっくりとした流れを、ここでは議論しました。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。ほかに補足はありますか。

【グループE】

一言だけ。革新の中には、新しい文化と新しい経済の創造というのが含まれていて、それ

を生み出していくための大もとになるのがシビックプライド。それをもとにいろいろなイベントでその町を知った人、地元に住んでいる人、ほかから来た人が、更にその町のよさや魅力をいろいろな切り取り方をしてくれると思うので、その町にしかない魅力をつくっていくことで、その町を革新していくということです。新しい文化や経済は本当に小さな地区、町・村単位でつくっていく、それがもう点々と県内いろいろな地域でそう革新されていけば、最終的に新しい文化の創造につながる。小さな地域がまずモデルになって、それを長野県が取り入れて、長野県が全世界に発信して地球をひっくり返してしまうみたいな、そういうことです。

【大宮 透氏】

なるほど、ありがとうございます。拍手をお願いします。もう少しブレイクダウンできそうですね、いい問いにできそうですね。シビックプライドをつくるにはどうしたらいいかとか、新しい町・村単位でそういったシビックプライドが生まれるような新しいイベントをつくっていくためにはどうしたらいいかとか。もうちょっと具体のレベルに落とせそうですね。ありがとうございます。

ということで、今、ここまでで5つ終わったんですが、僕が問いづくりにこだわっているのは、この場では多分、全然何も生まれなければなりませんよね。ただ生まれないんだけど、いい問いがつかれば、それが今後違う場所でもみんなで議論できるようなプラットフォームになっていくと思うので、何か漠然とした問いではなくて、できる限りみんなで今後も継続して議論できる問いというものを見つけられたらなというようなことが背景にありました。なので、もうちょっと一歩踏み込んだ問い設定がここから生まれてくるとすごくいいのかなと思っています。

では最後のセッションですが、この後、もうちょっと問いの続きや、全体発表、今のフィードバック、みんなの話も含めて議論を続けてほしいんです。ぜひこれを踏まえて、20分ぐらいで議論してほしいというワークに移ります。最初のテーマは、住みたい／住み続けたい信州になるようにそれぞれができることということだったんですけども。先ほど話した分野や内容について、今日は知事も来ているので県庁など行政に対してこういうことをやったほうがいいんじゃないというのもあると思うんです。また、自分自身が、または民間の企業さんが、それぞれの立場の人がその実現に向けてできることというのは何でしょうかというところの視点にも立って、最後、話をしてほしいと思います。議論の中で、こういったものを行ったらいんじゃないかといういろいろなアイデアが出ていますが、おそらくそれは誰かにやってくださいというようなものもあれば、自分自身の一歩でできるようなこともあると思いますので、それぞれにとってそれぞれができることは何なのか、ということも含めて議論を進めてみてほしいと思います。質問ありますか。大丈夫かな。やりながら、もしよくわからないことがあったら僕も回ってサポートしますので進めてみてください。では、あの時計で50分までの時間をお願いします。

(セッションその2 開始)

(セッションその2 終了)

(セッションその2 全体共有)

【大宮 透氏】

はい、ではここまでで止めさせてもらいます。では最後です。もう一度、各グループごとに発表。全体共有ということで一グループ2分ずつぐらいで共有をお願いできればと思いますが、どこから行きましょうか。

では、ここから行きますか。こちらは、雇用・働く環境をどうつくれるか。また、既にあるものをどう発信できるのかという問いだったんですけども、その問いかけが深まったのかも含めて、どんな話になったのかを共有してもらえればと思います。お願いします。

【グループC】

私たちの考えているのは、一応、雇用ということになります。仕事の悩みとか地域に入っていくときにしがらみがあるとか、誰に話せばいいかとかわからなかったり、実際に地域の人に相談して話はするけどそこで終わってしまうといったときに、それこそいろいろなことを知ってたりもっといろいろな意見をもらえる「ご意見を言えるプラットフォーム」、そういうものがあったらどうかと出ました。みんなの思ったこと、課題だったりやりたいこと、そういうのを投げ込むといろいろな人がそういうところにコメントをくれるところ、そういうところが個々にあるともっといろいろな人と出会えたり、新しい解決方法を教えてもらえて。就職といったら就職ガイダンスへ行って働くというのが当たり前だったけど、こういうのがあるというのを有識者からもらおうとそこへ行ってみようかなと思うかもしれないですし、県の職員の皆さんだといろいろな会社や地域を知っていて、そういう人たちに、あそこに行けばいいよというだけですごく変わってくるのではないかという、そういう簡単なプラットフォームがあると、みんな、より身近に感じて、帰ってきやすくなるんじゃないのかなというふうな答えが出ました。以上です。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。補足とかは大丈夫ですね。大分毛色が変化してきた感じもしますけども、どちらかというと仕事の悩みを相談できるような場をどうつくれるかというところですか。移ってきた人たちは多分、悩みや意見を言えるようなプラットフォームがあればいい、それが出会いの場につながったり悩み解決になるみたいな話があったんですけども、これ、県庁がつくれれば解決するのかというと、多分誰も来ないんじゃないかなとも思ったり。はい、どうぞ。

【グループC】

県庁がつくるのかもしれないけど、あくまでバックアップだから、やっぱりそれをやっていくのは地域で挙げていくとか。そんな方法ですよ。

【大宮 透氏】

そうですね。そこら辺の方法は何なのか、具体的にプラットフォームはどういうものならば、人が来やすくて来れるのかという問いかけが一つ生まれたという感じなのかな。ただ単に県がやればいいわけじゃなくて、いろいろな人が集まりながら元をつくっていくのかというところ、次の具体的な課題かと思います。ありがとうございます。拍手をお願いします。

では、続いてどうでしょうか。教育班ですね。ここは、子育てが伸び伸びできるということ売りをしていいのか、学力とどう向き合うか、両立できるか、そんな話が最初あったと思うんですけども、どうでしょうか。

【グループA】

教育班です。伸び伸びと学力という対立軸で考えてしまいがちなんですけども、伸び伸びと学力で分けるのではなく、簡単にいうと、長野県は伸び伸び路線で本当に幼稚園・保育園から小・中学校もしっかりそういうところを整備して、伸び伸びの中でもしっかり学びができるような環境をつくっていけば、ほかの県と差別化ができて人が集まってくるのではないかとということが挙げたのと、もう一つ挙げたものとして、寺子屋みたいに外部の人などに勉強を学んだり、地域の大人から社会のこと、勉強以外のことも学べるような場所があると、そういう人に会うことによって、将来について子どもたちが何か考えたりできる場所が生まれるのではないかとということが挙がりました。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。補足は何かありますか、ぜひ。

【グループA】

いいですか。日本人はネームバリューに弱いので、ハーバード大学の信州分校みたいなものをつくっていただいて、伸び伸びやっていって、目指すのはもう東大じゃなくてハーバードに行くこと。信州の子どもは。というところで今、考えています。自分たちでできることとして、ハーバードの学長に手紙を書こうかと。そこで落ち着きました。

【大宮 透氏】

絶対やってくださいね。ありがとうございます。拍手をお願いします。そうですね、どちらかという対立軸になりがちな伸び伸び路線と学力というものを両立して、だけどベースは伸び伸びなんですよみたいなところでプランニングしていくと。これ、ちゃんと発信できないと意味ないですね。だから、どういうコンテンツをつくっていくのかということと、それをどういうふうに関外の人に魅力的に思ってもらえるように発信できるのかみたいなことが多分、次の問いなのかなという気はしました。何かその方向でできるとすごく、信州らしさがありそうですね、ありがとうございます。

続いてどこか、ありますでしょうか。ではこちらをお願いします。こちらは、長野で働くときに内容の発信はどうあるべきなのか、発信とか女性の働きやすい環境がテーマでした。で

をお願いします

【グループD】

2回目のセッションでは具体的なことに踏み込んで考えてみました。移住をしていただく際に、例えば東京の人が長野に移住したいときに、ではどこに行けば長野のことがわかるんだろうと疑問が発生すると思うんです。インターネットで調べればいろいろわかるんですけども、長野に興味のある人がそこに行けば何でもわかる、何でも相談に乗ってもらえるというのが他県やほかの地域、自治体にあるというのは、移住をしていただく際にとってもメリットになるんじゃないかと思いました。

コンテンツ、内容ですが、例えば長野で豊かな自然に囲まれて豊かな暮らし方をしたいという人が来たとするれば、実際に新幹線代を出してあげて長野に来ていただくと。この企業は移住を希望されている方にマッチしている企業ですのでここにちょっと勤めてみてください、1週間ほどインターンしてくださいという形でインターンを斡旋したり生活を斡旋してあげる。長野に来ていただければ絶対魅力を感じていただけるので、実際に来ていただくための工夫として、そういったコンテンツを挙げました。

では、それをどうやってほかの地方で発信していくかということはまだ具体的には決まっていないんですけども、例えば東京で長野県の何でもわかる場所をつくったとして、それをどう発信していくか。ほかがないことをすれば自動的に目立つので、ちょっと内容はまだ踏み込めていないんですけども、そういう考えを持ちました。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。拍手をお願いします。何かほかに補足ありますか、どうですか。そうですね。新幹線代を出してとか、あまりほかのところがやっていないところを、長野だけはJRと組みましたよ、一回往復分ぐらいはパッと出してくれますみたいなのがあったらすごくいいですね。高齢の方ばかり安くしないでほしいな。若い人も安くしてくれよ、そういうのはありますよね。ほかがないことをやることで、その場所というのは自動的に発信されていくんじゃないかと。でも、そのコンテンツはまだこれから議論が必要だねということでした。ありがとうございます。

では次は、あと2つですけども、どうしましょうか。ではそちらのテーブルをお願いします。いいですね、知事のところが最後という。ここは20代中盤ぐらいの若者のマジョリティが長野に魅力を感じるためにはどうしたらいいか、そういったテーマだったわけですが、多分、そうじゃなくなっている気もしますが。ではお願いします。どうぞ。

【グループB】

実際、そうではなくなっていますね。全体のとっかかりとして考えたのが、まず大企業を呼び込むという話が出て、でもこれって結局、ほかにもいいところがあればそっちへ行っちゃうなど。たとえ1,000人集まっても、ほかにもいいところがあればその1,000人ごとそっちへ行っちゃうなと思ったので、ではそれに対してどうすればいいかなというのは、結局、個人的

な思いを集める、その少数のほうと同じようなテーマになってくるなと思いました。このときに、個人的な思いを集めるというので考えたのが、まず自分たちのことを考える、自分たちが楽しいと思うもの何だろう、このグループだったらデザインをすとか。それぞれができることを考えていくということ。私、行政の補助金事業をやっているんですけども、パンフレットとかチラシとかださいなと思う部分あったりするので、もっとわかりやすく、かっこいいものをつくってもらったり、そういうデザインと連携したりとかということも考えたり、そういうつながりが、結局、個人的な思いを集める、その地域に定着してもらえる、そういったことがつながっていくのではないかというふうに思いました。以上です。

【大宮 透氏】

ちょっとわかったようでわかっていないんですけど、僕。少数の声を集めてそれを発信するということってどういう感じですか。もしほかの人で補足があれば。今で伝わっていますか、大丈夫ですか。何か、みんなが楽しいことをやるのが、とりあえずいいんだみたいな、そういう感じですか、どうでしょうか。

【グループB】

大きな人数で何十人、何百人という人たちを一気に連れてくるというのは無理じゃないかなと思っていて、それだったら、自分たちのできるところで自分たちが暮らしを楽しんで、それこそ自分で生業としている例えばデザインを頑張っ楽しんで仕事をしたり住んでいくことで、たとえ一人でもそういったところに感化される人がいて来てくれたらいいなど。だから、早くはないですけど、一人が一人を連れてくるみたいなほうが結局、効果はあるかなという気がしていて、そういうふうに自分たちのできることをやっていくしかないのかなと思ったんです。だから、自分たちが楽しんで住むこと。それで楽しく住んでいる人を見て、あぁいいなと思ってきてもらえるというのがいいのかなと思っています。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。ごめんなさい、ようやくわかりました。拍手をお願いします。今の、一人が一人を連れてくるというのはすごいキーワードかなと思いましたよね。仕組みで一斉にどこからともなく連れてこようじゃなくて、一人一人が楽しんで、しかも一人を連れてくるみたいな。一村一品運動じゃないけど、ひとり一人を連れてこよう運動が長野県全体で広がったら、すごい数の移住者になりますよね。それでキャンペーンでできるかもしれないですよ。ありがとうございます。もう一回拍手をお願いします。

では最後。今ちょうど8時ぐらいなんですけれども、最後のチーム、お願いします。

【グループE】

よろしくをお願いします。阿部君のチームはすばらしいものが生まれまして、今まで各グループの皆さんの発表を聞いていて、ここに全て盛り込まれていくんだなと感じたんですが。さっきの中間の発表のときには、その循環のことを話したんですが、このグループで出たも

のを一つタイトルをつけるとすれば、「革新のシビックプライド」という形になるのかなと思いました。

このシビックプライドというのは、さっき説明あったんですけども、最初、地元愛とかなのかなと思ったんですが、地元愛というよりは、この町、もう廃れていってだめだとかマイナスのことを言う人も何だかんだその町を何とかしたいと思っている。そういう部分が愛であって、そういうものをシビックプライドというんだということをさっき聞いて、それをよく自分でも考えてみたら、結局はそこに住むしかないというか、もう家を建てちゃった以上、ここで住むと決めた以上、もうそこに住み続けるしかないとなったときに、人間はやっぱり何とかしなきゃと思うんだなと思って、それがシビックプライドなのかなと、ちょっと思いました。そこに生まれたから地元愛があるわけではなくて、そこに住むからこそ芽生える愛がシビックプライドだと思って、そのシビックプライドを持った人が、いろいろなことをきっかけにして町を革新していくと。新しい文化、経済を生み出すまちづくりをしていくと、その原動力になるのがこのシビックプライドなんじゃないかなということ。その循環の中に、ではどういふものが入ってくるのかということ、今まで皆さんが発表されたものがこの中に盛り込まれていくと思うんです。例えば、教育の問題に関して、県外にみんな出て行ってしまおうと、戻ってこないというふうにおっしゃっていたと思うんです、知事のほうでも。それを、ハーバードのほうに手紙を送るともおっしゃっていたんですが、ぜひハーバードに手紙を送るときに、長野にハーバード大学の長野キャンパスをつくって学部は信州学部。信州を学ぶ学部をつくって、もちろん地元の人でもいいですけども、例えば県外だったり海外から信州のよさをいろいろな人に見つけてもらう。いろいろな切り取り方をしてもらって、信州のよさを発信したり、また歴史のことを勉強したり。そこで学んだ人たちは卒業した後、県外だったり地元に戻ったときに、もう勝手に長野県の営業マンになると思うんです。長野県はこういうふうに住んでいるんだとか、このときはこうしているとか、それが長野の営業にもなるから、今度、それを聞いた人が長野に来てみたいとなる。ということは、いろいろなものの発信拠点になれる気がするんですね。だから、教育とも何か結びついていくのかなと思った。

あと子育てに関しては、今、働きに出るといふ考えが当たり前になってしまっていますけれども、働きに出たお金を稼ぎに行くのではなくて、自分で仕事を生み出すこと、お金を自分が生み出す、と考え方を変えていけば、わざわざ子どもとの時間をなくして働きに出て、子どもは保育園に預けて、ではなくなる。これは自分の母ちゃんが考えたんですけど、自分の台所をちょっとした食堂みたいにできる許可だけとって、お母さんがそこで近所の人たちのおかずをつくる。今、お年寄りの方たちはご飯をつくれなくて困ったり生活が大変な人たちがたくさんいるし、拠り所を求める方もいらっしゃる。そういう人たちが小さな、本当にご近所さんが集まれるような食堂があれば、そこでお母さんが子どもと一緒にいながら、子どもに手伝わせながら食事をつくって自分でお金を生み出せる。そうすると、子育ても少し変わってくるのかなと思いました。

あと移住に関しては、長野県の特徴として畑つきの物件をたくさん提供していって、そうすれば自分で食べ物をつくれる。食べ物さえつくれていれば、何かあったときにもとりあえ

ず生きていけるという自信があると思うんですね。特に都会は何かあったときに全てがとまってしまう、水もない、食べ物もない、だからパニックになっちゃうと思うんですけど、長野は自分で食べ物を生み出せる県なんで、そういう意味ではいいんじゃないかと思いました。

あと食、それから農業に関しては学校給食、これを地元でつくった野菜で全部、地産地消で回していく。その取り組みの一つとして、今、自分たちがやっていることなんですけども、保育園と提携をして、特に有機野菜とか無農薬の野菜をつくって、それを保育園に提供していく。真田町のほうですか、実績もいろいろ出ているんですけども、給食でいろいろ変わったという実績もあったりするので、やっぱり食で変えていくとか。

いろいろ出たんですけども、そういうものを通してシビックプライド、ここにしかないもの、ここでしかできないものというものをそれぞれの地区、それぞれの人が認識をして、自分の町を誇りに思って、古いもの、体制を変えて革新していく。革新されたその町が増えていけば、長野全体が全く違った文化を持つ県になるんじゃないかと思って、それを地球に発信して、地球を最後ひっくり返す。いろいろ出たのをまとめてみました。ありがとうございました。

【大宮 透氏】

ありがとうございます。何か補足とかありますか、どうでしょうか。知事はまだ言わないでください。何か補足は大丈夫ですか、ありがとうございました。

何か、ちょっと今、聞いていて思ったのは、シビックプライドの指標とかあったらおもしろいかなと思いました。定義とかシビックプライド指標みたいなもので何か全県77市町村で一番シビックプライドが高いところはここだみたいな。それは何故だ、とかあったらおもしろいなと思ったり。僕も結構、高校とかにかかわっていると、信州学も「信州のことをやれ」となって、意外と地元の子供たちはもういいよみたいなふうになっているところもあるわけですよ。すみません、知事の前で。だから逆に、外の人がどういう感じで信州で遊んでいるのかとか、どういう魅力があるのかみたいなことが、外の人による信州学みたいなプラットフォームとしてワーッといっぱい並んでいるようなサイトがあると、逆によさを気づいたりもするのかなと思って。もっと違った、何か多様な信州学があってもいいのかなという気はちょっとしました。いろいろな話が出たと思います。ありがとうございます。もう一度、拍手をお願いします。

ということで、みっちり2時間ちょっと過ぎましたが、お話しをさせてもらって、本当に皆さん、ありがとうございました。

3 講 評

【大宮 透氏】

最後、まとめの時間ということで、ちょっと5分ぐらい。私からは1、2分ぐらいで終わり

にしますが、まとめさせていただいて、知事に最後、まとめの一言ということでお話しをお願いできればと思います。

今日、何度もお話しをしたとおり、どういうことがテーマなのかというところを深めていったほうがいいよねということを少し丁寧にやらせてもらいました。さっきも言ったとおり2時間で見つけられることは本当に少ないので、これからもこういう目線でこの町とかこの地域とかこの長野を見ていくと、いろいろな発見があるような問いというものを多分、一人一人が持っている、もうちょっといいアイデアがどんどん浮かんできたり、新しい取り組みにつながっていくのかなということを思いました。県に対してこうやってくれというのはほとんどなかったのがびっくりだったんですけども、自分たちでできることもそうですし、こういったことをやったらいいんじゃないかみたいなもの、アイデアレベルで出てきたと思うんです。では、これをどういうもの、例えばここで言えば、意見を言うならプラットフォームがあればいいよね、それはどういうプラットフォームなのかとか、もう少し具体的などころまで落とし込んでいけると非常にいいのかなとも思いました。でも、ただやっぱり雇用とかをつくっていくためには、その受け皿となる町の魅力が必要で、もっと最低限のことを言えば、雇用が最初に必要で、それをどう情報発信をしていくのかとか、雇用の次におそらく子育て世代が重要なポイントというのは、子育てとか学びをどういうふうに地域でやっていくのかということで、ここをどうプランニングできるのか、どういうコンテンツをつくっていくのかということも非常に重要なんじゃないかなとも思いました。

おそらくこういったところが具体的な取り組みにつながって、かつ、ちゃんと発信できれば、長野の魅力もいろいろなところに伝わっていくのかなとも思いましたが、ぜひここで議論を終わらせずに、いろいろなところでこういったことを深めていければなどに思いますので、ぜひ今後ともよろしくお願いします。つたない司会でしたが、僕からはまとめの一言とさせていただきます。ありがとうございました。

すみません、なかなかまとまらないですけども、最後に知事にバシッと締めていただいで。お願いいたします。

4 知事総括

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。お疲れ様でした。大宮さんには進行役、ありがとうございました。

非常に幅広い議論が繰り広げられたんで、ちょっとまとめろといっても難しいんですが。私が皆さんの話を聞いていて、そして私も実際に話に加わって感じている一つは、私が最初そう言いましたけれども、あまり腰抜かすようなことを言ってもらえなかったということは、やっぱり日本人はやさしいなというふうに思っています。これは僕はいいことだと、別にだめだと言っていない、いいことだと思っています。結局、最後は、例えば一人が一人を連れてくるみたいな話だったり、あるいは課題を投げ込めばみんながコメントしてくれるプラッ

トフォームみたいな、最後は個人対個人、人対人とのつながりにかなり、今日の話も収れんしてきているのではないかと感じています。

私のグループのさっきシビックプライドの話。シビックプライドは多分、長野県全体では成り立たないなという話をそこでしていました。信濃の国ではつながっているけど、私は北信へ行けば飯山新駅できておめでとうございます、南信へ行けばこれからリニア中央新幹線頑張りますねと、全然違うことを言っています、正直言って。県民の皆様方、住んでいる人たちの関心が全く違うんです、長野県。だから少なくともシビックプライドを長野県民全体で共有するというのは非常に至難の業だと思いますし、さっき彼がずっと積極的なお話しをしてくれていたのですが、例えば長野市全体でもそうできるかということ、実は私は結構難しいのではないかと思います。もっと身近な顔の見える、本当に関係性があるところのエリアでこうしたシビックプライドを育てていくことが必要だし、またそういうところにはもうベースとしてのシビックプライド、多分あるんだろうなと思います。そういうことをやっぱりつなげていかなければいけなくて、さっきの課題投げ込み型プラットフォームも、おそらく全県1カ所でやったって全く機能しないだろうなと思いますし、自分たちが楽しめることで人を引っ張るというのも、長野県全体で同じことをやったって、多分、全く魅力のないものになってしまうなど。

結局、私が今日、自分で感じたのは、私の最終結論は、やっぱり長野県は最後はつぶさなければいけないんじゃないかと。県の職員がいっぱいいるのであれですけれども、例えば私は神奈川県庁にいましたけれども、神奈川県は本気で県の存在価値は何かというのを考えています。横浜市、川崎市、相模原市、3つ政令指定都市を抱えていて県の存在意義は一体何だろうなと考えています。私が昔、仕事をしていたときからそう思っているんですが、今だったらもっと危機感を持って考えていると思います。ただ、私はたちどころに県が消滅すればいいとは思わないです。まだまだ当然、県がやるべきことはあるんです。社会が発展する過程の中で、多分、昔は小さな集落単位で今みたいに手厚い補助金もないけど生きていかなければいけない、それだったらやっぱり地域で、隣の人々の悩みや課題は自分の事として捉えて助け合わなければ、多分生きていけなかった。それがどんどん行政が整って経済的に発展する中でだんだん、その地域の支え合いあるいは地域に対する愛情がなくても生きられる世の中になってしまった。それは片方では社会の進歩だったのかもしれないけれども、片方では本当に人間として大事なものを失ってきた進歩の過程でもあったんじゃないかと。皆さんは全然違う受けとめをしたかもしれないけれども、今日、私が議論に加わったりして皆さんの話を聞いていて感じたのはそういうことです。

だから、本当に地方創生ということを考えていく上では、今までの日本の社会の発展型を単になぞって、今までの我々が歩んできた歩みのその先に輝かしい未来があると考えたら、多分、大きな間違いを起こすんじゃないかと。やっぱりもう一回、昔の社会はどうだったのかという歴史に学びつつ、単に先祖返りするだけではなくて、さっきの革新、新しい文化や経済、我々が目指すべき方向は何なんだろうかということをしかりと考える。かつてのように霞が関が発想して、それを全国津々浦々どこの市町村に行っても立派な小学校ができたということは日本の進歩の一つの大きな象徴的なものだと思いますし、今までの日本の社会の

発展はその形でよかったんだと思います。だけど、もう経済的な豊かさが一定程度達成され、日本の国としてある程度の世界の中での位置づけができてきた中で、もう一回、やっぱり私たちが見直さなければいけないのは、足もとの価値、足もとのつながり、そこにもう一回帰っていかなければいけないのかなということが、私のまとめというか、今日皆さんの話を聞いての私の思いであります。

そういう中で、さっきのシビックプライドみたいな話は、やっぱり誰かがこうだと押しつけるのではなくて、その地域地域で本当に生み出して行って、育てていってもらわなければいけないなど。そういう意味で、県知事としての私がやらなければいけないことは、結構難しいなど。市町村長の皆さんのほうが、私は正直うらやましいなどいつも思っています。身近に住民がいて、身近にこの学校がある、この畑がある、この道がある、この人たちがいるという市町村長のほうが非常にうらやましいなど、私は思っていますけれども。私はやっぱり県知事としてやらなければいけないのは、新しい社会の方向性とほどんなものなのかというのを、悩みながらも県民の皆様方と一緒に見える化していく。さっき発信の話がしきりに出ていました。発信、大事だと思います。長野県内には少しずつ新しい未来に向けての動きが、確実に出てきていると私は思っています。長野県、森のようちえんの認定制度を新しく作りましたけれども、新しい教育、子育てのあり方も少しずつ芽生えてきています。あるいは産業のあり方、ちょっとこれは少し視点が違いますけれども、北信の移動知事室に行ったとき、建設業をやりながら冬はスキー場のインストラクターという暮らし方、半農半X的な暮らし方、私はこれからの長野県だけではなく日本の働き方としていいんじゃないかと思っていたら、そうかと。半スキー半建設もあるんだなというふうに思っていましたけれども。やっぱり都会ではできない。今までの右肩上がりの経済成長の中で日本が目指してきた社会の究極的な形が東京であったり大阪だと思います。だけど、東京だとか大阪で本当に我々が安心して暮らせるのかというと、他人の地域の批判をすることははいけませんけれども、私は本当の安心感はないんだろうななどいつも思っています。むしろ本当の安心感があるのは私たちの信州だと思います。だけど、それをうまく伝え切れていない。あるいは、徐々に変わってきているけれども、それを見る形にして未来はこれだということを、まだ正直言って示し切れていないのが今の長野県の状況だと思います。非常に難しいテーマなんですけれども、何とか私は皆さんの知恵と力をいただきながら、そうした方向性を明確に示して進んでいきたいと思っています。

長くなってしまって申しわけないんですけども、今日、皆さんのところに資料を配ってあるんですよ。実は「人口定着・確かな暮らしの実現に向けた施策展開の方向性（中間とりまとめ）」という極めて役所的な紙を配っていて申しわけないんですが、1枚めくっていただいたところに、「施策構築の基本的視点」と書いてあります。先ほどから自分で楽しまなければという話もあったので、実はこの基本的視点の一番最初に「人生を楽しむことができる県づくり」と私は書いています。あまり行政が楽しいだとか情緒的な言葉は使わないんですが、私は実は、この「楽しむ」、楽しい、そういうことがこれからの世界にとっては重要だろうと思っています。安心・安全、もちろん大事です。だけど安心・安全という行政が支え切れる分野だけではなくて、行政がもう支え切れない、我々が、住民が、県民が、国民が自分たちでやら

なければいけないというところまで行かないと、私は本当の地方創生にはならないのではないかと考えています。そういう意味で、私は県知事としてできることは最大限やっていきますが、やっぱり今来ている皆さんが自分たちの暮らしは楽しいよねと、あるいは、どうすれば楽しめるかということの本気で考えてもらって、その楽しみにひかれていろいろな人が集まってくる。楽しむというのは遊ぶことだけじゃなくて、真剣に仕事をすれば、真剣に人のために何かをやれば、それはすごく楽しいことになると思います。そういうことをぜひやってもらう中で、さっき一人が一人を呼んでくる、そういうことをぜひ目指していきたいなというふうに思います。ちょっと長くなって申しわけないんですが。

今日、まだスタートでありますので、さっき問題提起してもらって、ぜひ、皆さんが今日のテーマを一人一人自分事として持ち帰っていただいて、自分自身も考えていただくと同時に、周りの人にも長野県ってどうすれば若い人が集まるのという投げかけどんどんしてもらうことによって、いろいろな動きつくってもらえればありがたいなというふうに思います。今日は私としては大変充実した、私がいろいろ学ばせていただいた時間になったと思いますので、そういう意味では皆さんに心から感謝を申し上げて、私のごあいさつといたします。ありがとうございました。

【大宮 透氏】

知事、ありがとうございました。本当に、魅力とか楽しいことを発信するというのは、もしかしたら県の仕事かも知れない部分かなとも思いました。なかなか県の職員さんでどれだけ楽しい生活、ライフスタイルを送っている人を知っているのかというところは、ちょっと僕は……。すみません、最後になって変なことをぶっ込んだじゃいました。ぜひ直接、いろいろな町、地域の人と触れ合っていて、発信していただけたらななんていうことをちょっと、最後、入れましたけれども、よろしく願います。

時間が大分押してしまいましたけれども、最後に、課長のほうにお渡しして終わりにしたいと思います。

5 閉 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

大宮さん、それから皆さん、本当にありがとうございました。

この若者タウンミーティングですけれども、この後8月4日火曜日ですけれども、これが上田会場、それから8月28日の金曜日、こちらが飯田会場ということで決定しております。このような開催に当たっては1カ月ぐらい前にプレスリリースをさせていただきますので、皆さんからもお知り合いの方にお声がけしていただければということで、多くの若者の皆さんに参加していただくことを期待しております。お待ちしております。

それでは以上をもちまして、県政タウンミーティングを終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。